

## 今日のシライ中

### 本の翼

白井中学校図書室から VOL.1

皆さん、こんにちは！お元気ですか？本来なら、図書委員会プレゼンツ、「新入生歓迎ウエルカムイベント」を行ったり、「図書購入のアンケート」をとったり……。そんな4月もあっという間に過ぎてしまいました。「どこにも出かけられないよ。」「家の中ばかり……。」「そんなつぶやきが聞こえてくるこの頃ですが、そんな今だからこそ、あなたの周りにある「本」を手にとってみませんか？小さい頃読んでもらった懐かしい絵本。お父さん、お母さんが読んでいるちょっと難しい本。国語の辞書だって、読み物としては、相当面白いですよ。「本」は、古今東西、時空を超えて、私たちをどこにでも運んでくれる魔法の絨毯です。想像の翼を広げ、言葉の風に身をゆだね、楽しい旅に出かけましょう！今回は、今年度の課題図書3冊の紹介です。もう、学校に届いているので、気になった方は、声をかけてください。

#### 『11番目の取引』 アリッサ・ホリングスワース 鈴木出版

美しい物語でした。悲しい物語でした。でも、凜とした、「希望の物語」でもあります。ありていに言ってしまうと、タリバン侵攻下のアフガニスタンから逃れてきた「サミ」とその「じじ」の物語です。でも、そこには聞こえるはずのないアフガニスタンの楽器、ルバーブの調べが聞こえます。民族の誇りと、魂を紡ぐ「ルバーブ」の響き。「痛いほど苦しい記憶なんて、この人にわかるのか？閉じこめても閉じこめても記憶は鋭いかぎづめでぼくの心を引き裂き……。」「ふせろ！はやくふせろ！……。花火が観客の顔を明るく照らし出す。」それでも、「じじ」は何度も言います。「神は慈悲深い」読み終わってすぐ、ルバーブの響きを聞きました。あなたも是非、聞いてみて下さい。読んでみてください。

#### 『平和のバトン』 弓狩 匡純 くもん出版

「広島平和記念資料館には、アルミ製の質素な弁当箱が展示されています。」「滋が帰ってこん！」くるったように滋さんを探しつづけたお母さん……。」「いくら話しても、わかってもらえないことは多いです。それでもかまわんです。伝えつづけることが大事だと思うから。」「悲しいことですが、原爆も過去のこと、すでに“歴史”になっている」本作は、「被爆者の声を、見た光景を、美術を学ぶ生徒たちが絵にしています」と話す橋本先生の『次世代と描く原爆の絵』のノンフィクションです。他にも、『いしぶみ』（ポプラポケット文庫）『空が、赤く、焼けて』（奥田 貞子 小学館）伝え続けることこそが、平和のバトンです。

#### 『天使のにもつ』 いたう みく 童心社

前作二つとは、だいぶ雰囲気の違いのある作品です。5日間の職場体験先に「エンジェル保育園」を選んでしまった「ふうたくん」の奮闘記。でも、タイトルは、「天使のにもつ」なんですよ。さあ、このタイトルの示すものは……。優等生でも、しっかり者でもない、風汰君の職場先からの評価は、「子どもたちの絵」でした。秘密をぜひ解き明かしてください。